

教育目標（育成する人材像）

映画は、さまざまな表現領域にわたる総合芸術である。また同時に、その製作に際し、企画・準備・撮影・宣伝・上映公開などのすべてのプロセスにおいて、社会とのつながり、他者に対する想像力に基づいたコミュニケーションを要求されることになる。そういった学びを積み重ねることによって、豊かな創造力と強い人間力をもち、広い視野を備えた就業力を身につけた人材を育てていきます。映画を学ぶということは、新しい外国語を学ぶようなものです。そのことによって新しい視点や発想を獲得し、新しいコミュニケーションツールを身につけることができます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

修得する能力

探求力	世界のあり方やさまざまな人々の存在、社会の状況などを広く深く観察し、つねに貪欲に新たな発見を目指すことができる
思考力	現実のものごとやできごとの中に存在する「答えのない問題」を見出し、多様な視点を持って考察することができる
発想・構想力	既成概念に囚われることのない自由性、柔軟性を保持し、新しい発想、オリジナルな構想に挑むことができる
表現力	映画構造や表現手法を理解し、テーマや状況に応じた方法論を見つけ出し的確に表現することができる
行動力	創造の過程だけでなくさまざまな局面において、対峙する問題に対して率先して解決を目指した行動をすることができる
継続力	創造表現に対する強い意欲と真摯な姿勢を保持し、途中であきらめることなく目標や課題に向かい合い続けることができる
コミュニケーション力	社会との関係をつねに意識して協調と協働を実践、また、他者に対する想像力を高めた確かな発信を行うことができる

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

- 映画という「多様な表現領域を含む総合芸術」を通じ、豊かな想像力を持ち自らの力で自らの未来を切り拓くことのできる人材の育成を目指したカリキュラムを構成します。
- まず1年次初頭ではいくつかのチームを編成して短編映画づくりを体験、映画（映像表現）をつくることの楽しさや喜びを実感しながら、「自分は映画（映像表現）を通して何をやりたいのか」という学びの動機、原点を確認することから始めます。
- そこから、プロデュース（企画）、脚本、演出、撮影照明、録音、美術、演技、編集、配給宣伝、批評研究など映画における各領域の基礎をそれぞれのプロが指導、包括的立体的に映画表現を捉えていく視点を身につけていくよう促します。そしてその視点は、社会と自分との関係を考察していくことへと繋がられていきます。
- さらにその過程の中で、それぞれの学生の志向や特性を具体的な「キャリアデザイン」（就業目標設定）に結びつけていく作業へと導きます。
- 上回生へと進むに従ってそれぞれの領域における専門性を高め、的確な表現力と創造性豊かなオリジナリティを備えた「新しい時代のプロフェッショナル」を育てます。
- また、インターンシップなども活用しながら、企画立案から配給宣伝まで含む映画制作の実践の中で、コミュニケーション能力と社会性を持った幅広い視野の獲得を指導、映画映像業界だけでなく様々なステージで自分の存在を生かすことのできる「魅力ある人間」の育成を図ります。